

日本性科学会ニュース

第 43 回 日本性科学会学術集会

日 時：2024 年 9 月 16 日（月・祝）8 時 30 分～16 時

テーマ：多様性とギャップを考える

会 場：札幌医科大学臨床教育研究棟講堂（北海道札幌市中央区南 1 条西 17 丁目）

学会長：宮の森レディースクリニック 院長 池田 詩子

参加費：会員・非会員（一般）10,000 円、さっぽろレインボープライド（9 月 14・15 日開催）参加者 3,000 円、学生 2,000 円

HP : <https://www.jsss43sapporo.com/>

※一般演題の募集は 6 月 16 日をもって締切りました。

※現在、参加受付中です。

第 43 回 日本性科学会学術集会 市民公開講座

日 時：2024 年 9 月 15 日（日）17 時 30 分～18 時 30 分

講座名：札幌医大附属病院 GID クリニックの 20 年の歴史

講 師：札幌医科大学医学部 泌尿器科学講座 教授 舩森 直哉

会 場：札幌医科大学臨床教育研究棟講堂（同上）

参加費：無料 ※申込み不要

第 23 回日本性科学連合 JFS 性科学セミナー

日 時：2024 年 9 月 15 日（日）第 1 部 11 時 30 分～12 時 30 分（昼食付）

第 2 部 13 時～17 時

テーマ：第 1 部 ミルトン・ダイヤモンド先生追悼講演会

第 2 部 セクシュアリティと法律・社会のいま 2024

会 場：札幌医科大学臨床教育研究棟講堂（同上）

参加費：第 1 部 2,000 円（昼食付、一般・学生共通）

第 2 部 一般 3,000 円、第 43 回 JSSS 学術集会参加者 2,000 円、学生無料

HP : <http://www.jfs1996.jp/>

※現在、参加受付中です。

第 43 回 JSSS 学術集会・第 23 回 JFS 性科学セミナー 合同懇親会

日 時：2024 年 9 月 15 日（日）19 時 10 分～（2 時間程度）

会 場：真狩村金丸農園直営 野菜居酒屋ルンゴカーニバル 札幌駅北口店

参加費：5,000 円

※合同懇親会は席の都合上、定員になり次第、締め切らせていただきます。

参加を希望される方は、第 43 回 JSSS 学術集会または JFS のホームページより参加申込画面にアクセスの上、なるべく早めにお申込みください。

発行人 針間克己

発 行 令和 6 年(2024 年) 6 月

DTP 編集工房一生社

一般社団法人 日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-2-3 森島ビル 4 階

TEL・FAX : 03-3868-3853 E-mail : office@sexology.jp URL : <https://sexology.jp>

内的世界と関係性に向き合った「単身赴任」夫婦との心理面接過程についての検討

中原 由望子

性科学会症例検討会は隔月1回2時間程度実施されている。各回一名が性に関連する症例を発表し、面接経過を振り返りながら、クライアントについての理解、セラピストの自己理解、面接内での相互作用についての理解を深める場およびセラピストの資質向上の場となっている。医療・福祉・教育領域を専門とする臨床家たちからの助言や教示がセラピストの新たな気づきを生み出し、その後のセラピーに活かされ、ひいてはクライアントの利益に繋がる。本研究会での症例発表は、セラピスト自身の痛みにも専門家達から目が向けられ癒される感覚をもたらし、今後の症例に向き合う原動力となっている。

本稿で紹介する以下の症例は、7名の臨床家によって多角的に検討がなされた。

【症例】「セックスレス」が夫婦関係の維持に否定的影響を及ぼしていると考える30代夫婦との1年3カ月の心理面接であった。夫婦の親密性を深化させ信頼関係を築き直すことを目的として来談された。

【主訴】別居生活であることから相手の生活や対人関係に対する「不信心」が増幅され、夫婦の関係性は膠着状態にあり、その精神状態の不安定さが生活に支障をきたし始めた。膠着状態の原因は「セックスレス」に帰されていたが、今後も「単身赴任」が維持されることが決まっていたため行き詰まり、心理臨床的介入を求めた。

【面接構造】月1回90分、夫婦合同面接（有料）。X年10月からX+2年1月の全15回の心理面接が女性担当者（以下、Th）によって実施された。#1～3回は夫婦同席対面で実施され、その後終結までの#4～15は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、ビデオ通話で面接は実施された。

【クライアント】初回来談時において婚姻は1年2カ月経過していた。企業指示による「単身赴任」で、婚姻期間の全てを別に居住している。夫は海外、妻は日本で別企業にて就労している。子どもはいない。お互いの原家族と年に数回の交流がある。夫婦ともに既往歴なし。

【面接概要】面接は「セックスレス」を主題としながら、面接の場における三者の交流に焦点を当てながら進められた。科学的思考を多用する夫婦にとって心理面接で扱われた事項は「非科学的で形の見えない曖昧な問題」として苦手意識が示され、感情や性欲もそこに含まれた。「セックスレス」状態にある夫婦個々の心的内界や関係性の捉え方に目を向け、影響を与えた心的欲動や空想および実体験に

ついて整理し、夫婦の相互理解を通して親密性を深めていける心的状態をもたらすことを方針とした。

夫婦は「セックスレスの話題など恥ずかし過ぎる」と述べながら、一方では、関係性を好転するための性的接触や身体接触の重要性を訴えたため、性的行動の頻度の低さが夫婦関係に及ぼした影響について話し合われた。夫婦間で性的な話題を回避してきたのは、羞恥心や内在化した規範の常識的文脈に依るものであったが、Thという第三者が加わることで課題に向き合う姿勢が促進されたと考えられた。

親密関係を阻害した一つの要因として安全保障操作（Sullivan 1953 = 中井他 1990）*が考えられた。原家族においての充たされない感覚を眼前にある関係性に持ち込み、先手を打ったり、黙り込んで気配を消したりしたことを振り返り、夫婦に明確に共有された。夫婦が内的に生じていた不安を抑圧し、無かったこととしてきた「個人の問題」が、「私たちの問題」として表現されるようになり、日常生活の関係性にも好転的変容が見られるようになった。Thに個人の内的世界を開示しながら、内的世界に向き合うパートナーの姿を相互に観察したことで、相手の全身像を発見できたとともに、相手に対して行ってきた自身の全体像の理解にも繋がった。面接内で実践されたような感情共有や協働といった深い交流がこれまでなされてこなかったことが「セックスレスよりも重要な問題であった」とされ、夫婦の親密性を深める交流のひとつの方法として今後も「ふたりで」採用していくことが示された。

【検討概要】本症例は「セックスレス」を起点に開始されたが、厳密に言えばその定義から外れている。面接がクライアントの体感に沿って二者の内的世界や心的動向を捉える方向で進められるうちに、セックスレスの問題は副題と化した。セックスレスに対しては、通常、行動療法的な介入がなされるが、本症例においては関係性を主題として進められた。今後、別居がさらに長期に渡る場合には、行動療法的介入の導入も想定しておく必要性が検討された。今後の心理臨床的介入の場にこれらのフィードバックが活用されることがクライアントのさらなる健康に資すると考えられる。

* Sullivan, H. S. (1953) : The interpersonal theory of psychiatry. New York. W. W. Norton. 中井久夫・宮崎隆吉・高木敬三・鏑幹一郎、訳（1990）：精神医学は対人関係論である、みすず書房。

（注）本症例は、『立命館大学心理教育相談センター年報』（2023）にて公開されている。

【追悼】

ミルトン・ダイヤモンド博士を偲んで

大阪公立大学 東 優子

ハワイ大学名誉教授で性科学者のミルトン・ダイヤモンド博士が2024年3月20日に逝去（享年90歳）された。同月上旬に家族や親しい友人たちと誕生日を祝った後の、実に安らかな旅立ちだったという。



ミッキーと愛妻コンスタンス・プリン
トン・ダイヤモンド
名誉教授就任祝いにて（2009年）

日本をこよなく愛したミッキー

ミッキーという愛称で知られる博士は、生粋のニューヨークっ子で、ユダヤ系ウクライナ移民の3番目の末っ子として生まれた。17歳で入学したCCNY（現在のニューヨーク市立大学）で生物物理学を専攻し、内分泌学や動物行動学なども学んだという。米国には予備役将校訓練課程（ROTC）といって、卒業後の入隊を前提に、授業料や生活費の一部または全額を負担してもらえらる制度がある。ミッキー青年もこれを受講する学生のひとつだったので、卒業後と同時に地図の分析と作成に携わる地形工学士官として東京に配属された。この3年間で、日本をこよなく愛すようになったという。

米国に戻り、CCNY時代の教員の勧めでカンザス大学大学院に進学。動物や人間の性行動に対する子宮内ホルモンの影響に関する論文を書き、1962年に解剖学と心理学の博士号を取得した。解剖学・内分泌学・心理学を組み合わせた当時の研究が、その後のキャリアに多大な影響を与えたことは言うまでもない。

初めて教職についたのはケンタッキー州にあるルイビル大学である。ハワイ大学に移ったのは1967年のことで、新設された医学部の教員として迎えられた。年齢による差別が禁止されている米国では、教授

に「定年」がなく、2009年（75歳）で名誉教授に就任するまで、研究室を維持し続けた。そして教職を離れた後も、研究に関しては生涯現役を貫いた。なお、PCSSのWEBサイトでは、1960年代の抄録から2016年に発表したトランスジェンダーに関する論文まで博士の膨大な業績が一覧でき、その多くが全文ダウンロード可能となっている。

Nature loves variety(自然界は多様性を好む)

ダイヤモンド博士を文字通り「世界的に有名」にした研究は、「マネーの双子」と呼ばれる事例の追跡調査にはじまる。この悲劇については、事の顛末を含めて、ジョン・コラピント著『ブレンダと呼ばれた少年』（無名舎 2000年）などでもお読みいただける。ジョン・マネー博士がインターセックス児の非典型的な性器を「矯正」する手術を勧めたことを問題視し、数年かけてケアに関するガイドラインも策定したダイヤモンド博士は、インターセックスをDSD（性分化疾患）としてではなく、多様な性のありようとして扱った。

私がハワイ大学「性と社会太平洋研究所」（以下、PCSS）を主宰する博士の下で研究員をしていたのは、この事例の経緯や顛末が世間に出回る直前の、1993～95年である。ちょうど博士が論文発表の準備をしている（社会に衝撃を与えた長編記事の取材をコラピントがしている）時期だった。インタビュー音声の流れる研究室で、涙もろいミッキーがハンカチで鼻をかみながらパソコンに向かっていった姿が印象に残っている。

博士はよく「世間はよく、男が男を好きになる（同性愛）なんて不自然だ、などというけれど、多様なありようを生み出すのが自然界の法則。不自然だというのは、むしろ自然界に失礼」と言った。涙もろくて人情味溢れた博士の言葉「自然界は多様性を好むが、社会がこれを嫌う」は、世界中で引用されている。

御冥福を心から祈ります。

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト資格認定委員会より

資格認定委員会委員長 大川 玲子

一般社団法人日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、ならびに更新規定に基づき、2024年度の新規資格認定ならびに更新資格認定を行います。

資格認定申請期間は、新規・更新ともに2024年8月1日～8月31日です。新規資格認定希望者は、申請書類を一般社団法人日本性科学会事務局までご請求ください。資格更新該当者は、事務局より7月中に更新申請書類を送付いたします。

いずれの場合も資格認定規定をご熟読の上、ご申請下さい。ご不明な点は学会事務局までお問い合わせください。なお、現在、資格認定制度の見直し中ですが、2024年度新規資格認定及び更新については現行制度で行われます。

『日本性科学会ニュース』の電子発行（紙面配布終了）について

HPがリニューアルし、新たに「会員ページ」が公開されました。メールアドレスとパスワードを使用してログインすることで、過去発行の『日本性科学会ニュース』や『日本性科学会雑誌』が閲覧できるようになりましたので、ぜひご活用ください。

『日本性科学会ニュース』は、最新版はダウンロードも可能です。つきましては、2024年度中を目処に電子発行に切り替え、印刷版の作成や郵送は廃止する方向で計画しています。

但し、当面の間は、印刷版を希望される方には郵送も行いますので、電子発行後も郵送を希望される方は、下記Googleフォームにご記入いただくかメールで事務局へご連絡ください。



「日本性科学会ニュース」郵送継続希望連絡フォーム
<https://forms.gle/qwRLRCBZ83qmxytE7>

●事務局より

年会費納入のお願い

昨年的一般社団法人化に伴い導入したクラウド型会員管理ツール【学会バンク】上で、2023年度および2024年度年会費のご請求を行っています。お早めにご納入くださいますようお願い申し上げます。

学会バンクの利用方法に関するお問い合わせや、オンライン決済が難しい方は、事務局までご連絡ください。
(office@sexology.jp/月・水・金 11:00～14:00開室)

メールアドレスご登録のお願い

【学会バンク】上から年会費を支払うためにメールアドレスが必要になります。まだメールアドレスを提出していない会員の方は、事務局までご連絡ください。

上記のHPの「会員ページ」の利用にもメールアドレスは必須となります。
お早目のご登録をお願い申し上げます。

【訃報】

本会名誉会員の斎藤宗吾先生が去る5月22日に96歳で逝去されました。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。日本性科学会ニュース9月号に本会理事の追悼文を掲載予定です。